

動物由来感染症発生状況（令和7年度）

○主な感染症の発生件数（合計） 431件 （その他の感染症報告25件 合計456件）

○主な感染症の種別発生ランク

種 別	発 生 件 数 順 位		件 数
感染症	1位	回虫症	115
	2位	マラセチア症	110
	3位	皮膚糸状菌症	79
病原体	1位	真菌	189
	2位	寄生虫	170
	3位	原虫	69
地域※	1位	乙訓地域（2定点）	53.0
	2位	中丹地域（3定点）	40.0
	3位	南丹地域（3定点）	23.3
動 物	1位	猫	225
	2位	犬	195
	3位	その他動物（ウサギ・鳥等）	11

※ 地域別発生件数：1定点あたりの発症件数に換算

○考 察

▶発生件数では、回虫症、マラセチア症及び皮膚糸状菌症が年間を通じて多く報告され、特に回虫症は幼猫や猫での発生が目立ちました。これらは人への感染リスクも有することから、適切な駆虫、飼養環境の衛生管理及び飼養者への手洗い励行など、基本的な感染予防対策の重要性が改めて確認されました。

▶本年度は重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する動向が特に注目されました。府内ではヒト症例が府北部地域から、初めて京都市域及び山城地域へと確認されるとともに、猫での発生報告も認められました。

なお、本年度の積極的疫学調査では、イヌもネコもSFTSウイルス抗体陽性事例は認められませんでした。

▶レプトスピラ症については、犬での届出が年間を通じて複数地域で認められ、一部では死亡事例も報告されました。

また、ヒト症例も確認されており、人と動物の双方に関わる重要な感染症として継続した注意が必要です。犬へのワクチン接種の推進や、感染リスクの高い環境への注意喚起が求められます。

▶12月には府内で21年ぶりとなる高病原性鳥インフルエンザの発生が確認されました。関係機関の迅速な対応により防疫措置は適切に実施されましたが、飼養鳥におけるバイオセキュリティ対策や野生動物の侵入防止対策の重要性が改めて認識されました。

令和7年度動物由来感染症発生状況調査報告（月別考察一覧）

○令和7年4月

- ▶前月に比べて報告件数が増加しています。

マラセチア症が一番多い傾向は前月や昨年度の同月と同じです。

- ▶また、4月には**山城地域において家畜伝染病予防法に基づく、犬のレプトスピラ症の発生届出が1件**ありました。

レプトスピラについても、狂犬病予防注射とともに、犬へのワクチン接種などで予防に努めるよう飼い主への啓発をお願いします。

○令和7年5月

- ▶例年と同様に4月に比べて5月の報告件数は増加しています。

- ▶5月中には**京都府北部において、ヒトでのSFTSの発生件数が2件**ありました。

また、**三重県においてSFTSのネコを診療した動物病院の獣医師がSFTSに感染しお亡くなりになる痛ましい事故**がありました。

- ▶体調不良の動物に限らず、感染リスクの高い症状を取り扱う際の動物病院においては、手袋やマスク等の个人防护（PPE）を徹底する必要があります。

○令和7年6月

- ▶回虫症の報告件数が前月に比べて上昇し、1位となりました。そして、そのほとんどが幼猫での発症報告でした。

ペットの定期的な健康診断と、必要に応じて駆虫処理をすることが大切です。

- ▶また、**6月に丹後地域でヒトのSFTS発症の届出が1件**あり、今年度は3件目になります。

SFTSは野外のマダニが媒介する人獣共通感染症です。犬や猫も日頃からマダニ予防薬を処置することが重要です。

特に猫は、マダニに刺されないよう完全室内飼育を心がけましょう。

○令和7年7月

- ▶回虫症、マラセチア症が発生件数の1位と2位であり、その傾向は前月と変わりませんでした。

- ▶**丹後地域において、猫の重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の発生報告**がありました。発症した猫は、ネズミを捕るような外飼いの猫だったとのことです。猫には、ノミ・ダニ予防や完全室内飼育が望まれます。

- ▶また、**府南部地域（宇治田原町）で初めてヒトのSFTSの発生**がありました。この動物由来感染症サーベイランス事業の積極的疫学調査において、**府南部地域の犬からSFTSウイルス抗体陽性事例が数例確認**されていることから、既にウイルスはこの地域まで広がっていたと考えられます。

- ▶**京田辺市において家畜伝染病予防法に基づく、犬レプトスピラ症の発生の届出**が府畜産課にありました。予防にはワクチン接種が有効です。

○令和7年8月

- ▶8月の発生順位は回虫症、皮膚糸状菌症、マラセチア症の順で、昨年度の8月の順位と同様ですが、昨年度より発生件数が増加しています。

- ▶回虫症はほとんどが猫での発症です。人への感染防止のため、猫との過度な接触（キスや口移し）は避け、猫を触った後は手洗いを励行するよう指導・啓発をお願いします。

○令和7年9月

- ▶先月との比較においても、前年同時期との比較においても、全体の報告件数は減少傾向です。

- ▶家畜伝染病予防法に基づき、**舞鶴市、福知山市及び京都市（西京区）の動物診療施設から犬のレプトスピラ症の届出**がありました。

うち2頭は予後不良で死亡しています。死亡したうちの1頭は狍犬であり、野外で感染した可能性が高かったと思われます。

レプトスピラ症の予防において、ワクチン接種は有効な手段です。

- ▶9月12日に**京都市において、ダニ媒介感染症である重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の患者が確認**されました。

感染地域は不明ですが、草むらなどに入る場合は、肌の露出を少なくし、虫除け剤を使用するなどして、マダニに刺されないように注意喚起をお願いします。

○令和7年10月

- ▶先月との比較においても、前年同月との比較においても、全体の報告件数は減少傾向です。
- ▶10月に丹後保健所管内において、ヒトの重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の患者が確認されました。
SFTSはマダニを介して感染することが知られているため、草むらなどに入る場合は、肌の露出を少なくし、虫除け剤を使用するなど、ペットを含めてマダニに刺されないよう注意が必要です。

○令和7年11月

- ▶前月と同様にランブル鞭毛虫／シアルジア症が最大の発生報告件数です。
- ▶11月に京都市内で「家畜伝染症予防法」に基づく犬のレプトスピラ症の発生届がありました。
今年の9月に京都市、福知山市、舞鶴市でも犬のレプトスピラ症の発生届が出ています。
- ▶一方でヒトのレプトスピラ症については、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき、9月に京都市内で2件、11月に南丹市で1件報告されています。
レプトスピラは、感染動物の尿や尿に汚染された水や土から皮膚や口を介してヒトに感染します。レプトスピラを予防できるワクチンは、ヒトにはありませんが犬にはありますので、屋外での活動が多い犬には予防のための接種を考えましょう。

○令和7年12月

- ▶報告件数は、病原体として真菌が一番多くなり、皮膚糸状菌症及びマラセチア症が上位を占めました。
- ▶12月24日に亀岡市の養鶏場で高病原性鳥インフルエンザが発生し、防疫作業の結果、12月30日に防疫措置が完了しました。
京都府で高病原性鳥インフルエンザが発生するのは21年ぶりになります。ペットの鳥についても鳥インフルエンザから守るため、野鳥・野生動物の侵入がないようネットやケージの破損がないか確認し、日々の健康観察を徹底しましょう。
- ▶京都市内の飼養者の犬においてレプトスピラ症（疑い）発生の届出がされています。

○令和8年1月

- ▶今月は、回虫症の報告が一番多く、症例のほとんどが猫でした。
また、その他の感染症として瓜実条虫の報告が5件上がっていますが、すべて猫の症例報告です。
どちらも寄生虫を原因としますが、回虫症は動物の糞便処理、瓜実条虫はノミを媒介してヒトに感染することがありますので、ペットの
- ▶トイレ掃除の後や過度なスキンシップには注意が必要です。また、動物とふれあった後にはしっかりと手洗いをするように、飼い主への注意喚起をお願いします。

○令和8年2月

- ▶気温の低いこの時期は、年間を通して発生件数の少ない傾向に変わりはありません。
- ▶しかし、ここ数年の傾向として高温多湿な時期に多く発症がみられる真菌を病原体とする感染症の報告が、季節を問わず多くなっています。
マラセチア症は、健康な人への感染の可能性はかなり低いですが、皮膚糸状菌症は動物との直接的な接触や、環境（ペットの寝具）から感染することがあります。
引き続き、ペットとふれあった際や飼養場所の清掃後には、必ず手洗いをするようご指導をお願いします。

○令和8年3月

- ▶発生件数が前月比、前年の同月比からも上昇していますが、マラセチア症の報告件数が多い傾向は同じです。
- ▶今月、京都市西京区の飼い犬で、レプトスピラ症の届出（家畜伝染病予防法に基づく届出）があり、結果的に予後不良でした。
レプトスピラ症を未然に防ぐには、ワクチン接種を行うことが大切です。
- ▶4月から狂犬病予防注射の接種が始まります。狂犬病予防法に基づき、飼い犬には一年に一回の狂犬病予防接種が義務づけられています。

動物由来感染症発生状況（令和7年度）

【主な感染症】

病 原 体	感 染 症	京都市(4定点)				乙訓(2定点)				山城(3定点)				南丹(3定点)				中丹(3定点)				丹後(2定点)				計			
		件数	犬	猫	その他	件数	犬	猫	その他	件数	犬	猫	その他	件数	犬	猫	その他	件数	犬	猫	その他	件数	犬	猫	その他	件数	犬	猫	その他
ウイルス	狂 犬 病																						0	0	0	0			
	高病原性鳥インフルエンザ(H5N1)																						0	0	0	0			
	H5N1を除く鳥インフルエンザ																						0	0	0	0			
	新型インフルエンザ等感染症																						0	0	0	0			
	小 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
クラミジア	オウム病																							0	0	0	0		
	小 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
細 菌	結 核																						0	0	0	0			
	ブルセラ症																						0	0	0	0			
	レプトスピラ症												1	1			1	1					2	2	0	0			
	カンピロバクター症					1	1																1	1	0	0			
	パストレラ症																						0	0	0	0			
	エルシニア菌症																						0	0	0	0			
	小 計	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	3	3	0	0		
原 虫	ランブル鞭毛虫／ジアルジア症	23	14	9		10		10		8	5	3		13	12	1		15	14	1			69	45	24	0			
	トキソプラズマ症																						0	0	0	0			
	小 計	23	14	9	0	10	0	10	0	8	5	3	0	13	12	1	0	15	14	1	0	0	0	69	45	24	0		
真 菌	皮膚糸状菌症	22	7	11	4	18		14	4	1		1		12		12		20	4	14	2	6		6	79	11	58	10	
	マラセチア症(耳介のみの発症は除く)	32	30	1	1	6	6			17	17			9	9			46	46				110	108	1	1			
	小 計	54	37	12	5	24	6	14	4	18	17	1	0	21	9	12	0	66	50	14	2	6	0	6	0	189	119	59	11
寄生虫	マンソン裂頭条虫					24		24		4		4		8		8		8		8		3		3		47	0	47	0
	エキノコックス																								0	0	0	0	
	回 虫 症	4	3	1		47	1	46		5	3	2		26	6	20		25	8	17		8	1	7	115	22	93	0	
	東洋眼虫																								0	0	0	0	
	鉤 虫 症									1		1						2	1	1					3	1	2	0	
	顎 口 虫																								0	0	0	0	
	疥癬症(耳疥癬症を含まない)	1	1											1	1			3	3						5	5	0	0	
	小 計	5	4	1	0	71	1	70	0	10	3	7	0	35	7	28	0	38	12	26	0	11	1	10	0	170	28	142	0
合 計		82	55	22	5	106	8	94	4	36	25	11	0	70	29	41	0	120	77	41	2	17	1	16	0	431	195	225	11
1 定点あたりの発症件数(発生数／定点数)		20.5				53.0				12.0				23.3				40.0				8.5				25.4			

【その他の感染症】

病 原 体	感 染 症	京都市(4定点)				乙訓(2定点)				山城(3定点)				南丹(3定点)				中丹(3定点)				丹後(2定点)				計			
		件数	犬	猫	その他	件数	犬	猫	その他	件数	犬	猫	その他	件数	犬	猫	その他	件数	犬	猫	その他	件数	犬	猫	その他	件数	犬	猫	その他
ウイルス	SFTS																			1		1		1	0	1	0		
	小 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0		
クラミジア																								0	0	0	0		
	小 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
細 菌																								0	0	0	0		
	小 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
原 虫																								0	0	0	0		
	小 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
真 菌																								0	0	0	0		
	小 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
寄生虫	フィラリア症					2	2																	2	2	0	0		
	瓜実条虫	7		7									1		1		9		9		1		1		18	0	18	0	
																								0	0	0	0		
																								0	0	0	0		
																								0	0	0	0		
																								0	0	0	0		
	小 計	7	0	7	0	2	2	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	9	0	9	0	1	0	1	0	20	2	18	0
節足動物	ツメダニ	1			1	3			3															4	0	0	4		
																								0	0	0	0		
	小 計	1	0	0	1	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0		
合 計		8	0	7	1	5	2	0	3	0	0	0	0	1	0	1	0	9	0	9	0	2	0	2	0	25	2	19	0
1 定点あたりの発症件数(発症数／定点数)		2.0				2.5				0.0				0.3				3.0				1.0				1.5			

動物由来感染症動物種別発生状況(令和7年度)

【主な動物感染症】

属	感 染 症	犬			猫			その他	計
		件数	成犬	幼犬	件数	成猫	幼猫		
ウイルス	狂 犬 病								
	高病原性鳥インフルエンザ(H5N1)								
	H5N1を除く鳥インフルエンザ								
	新型インフルエンザ等感染症								
	小 計	0	0	0	0	0	0	0	0
クラミジア	オウム病								
	小 計	0	0	0	0	0	0	0	0
細 菌	結 核								
	ブルセラ症								
	レプトスピラ症	2	2						2
	カンピロバクター症	1	1						1
	パスツレラ症								
	エルシニア菌症								
	小 計	3	3	0	0	0	0	0	3
原 虫	ランブル鞭毛虫ノジアルジア症	45	17	28	24	11	13		69
	トキソプラズマ症								
	小 計	45	17	28	24	11	13	0	69
真 菌	皮膚糸状菌症	11	8	3	58	21	37	10	79
	マラセチア症(耳介のみの発症は除く)	108	108		1	1		1	110
	小 計	119	116	3	59	22	37	11	189
寄生虫	マンソン裂頭条虫				47	31	16		47
	エキノコックス								
	回 虫 症	22	10	12	93	25	68		115
	東洋眼虫								
	鉤 虫 症	1	1		2		2		3
	顎 口 虫								
	疥癬症(耳疥癬症を含まない)	5	5						5
	小 計	28	16	12	142	56	86	0	170
合 計		195	152	43	225	89	136	11	431

【その他の動物感染症】

属	感 染 症	犬			猫			その他	計
		件数	成犬	幼犬	件数	成猫	幼猫		
ウイルス	SFTS				1	1			1
	小 計		0	0	1	1	0	0	1
クラミジア									
	小 計		0	0	0	0	0	0	0
細 菌									
	小 計		0	0	0	0	0	0	0
原 虫									
	小 計		0	0	0	0	0	0	0
真 菌									
	小 計		0	0	0	0	0	0	0
寄生虫	フィラリア症	2	2						2
	瓜実条虫				18	12	2		18
	小 計	2	2	0	18	12	2	0	20
節足動物	ツメダニ							4	4
	小 計		0	0	0	0	0	4	4
合計		2	2		19	13	2	4	25

動物由来感染症月別発生状況（令和7年度）

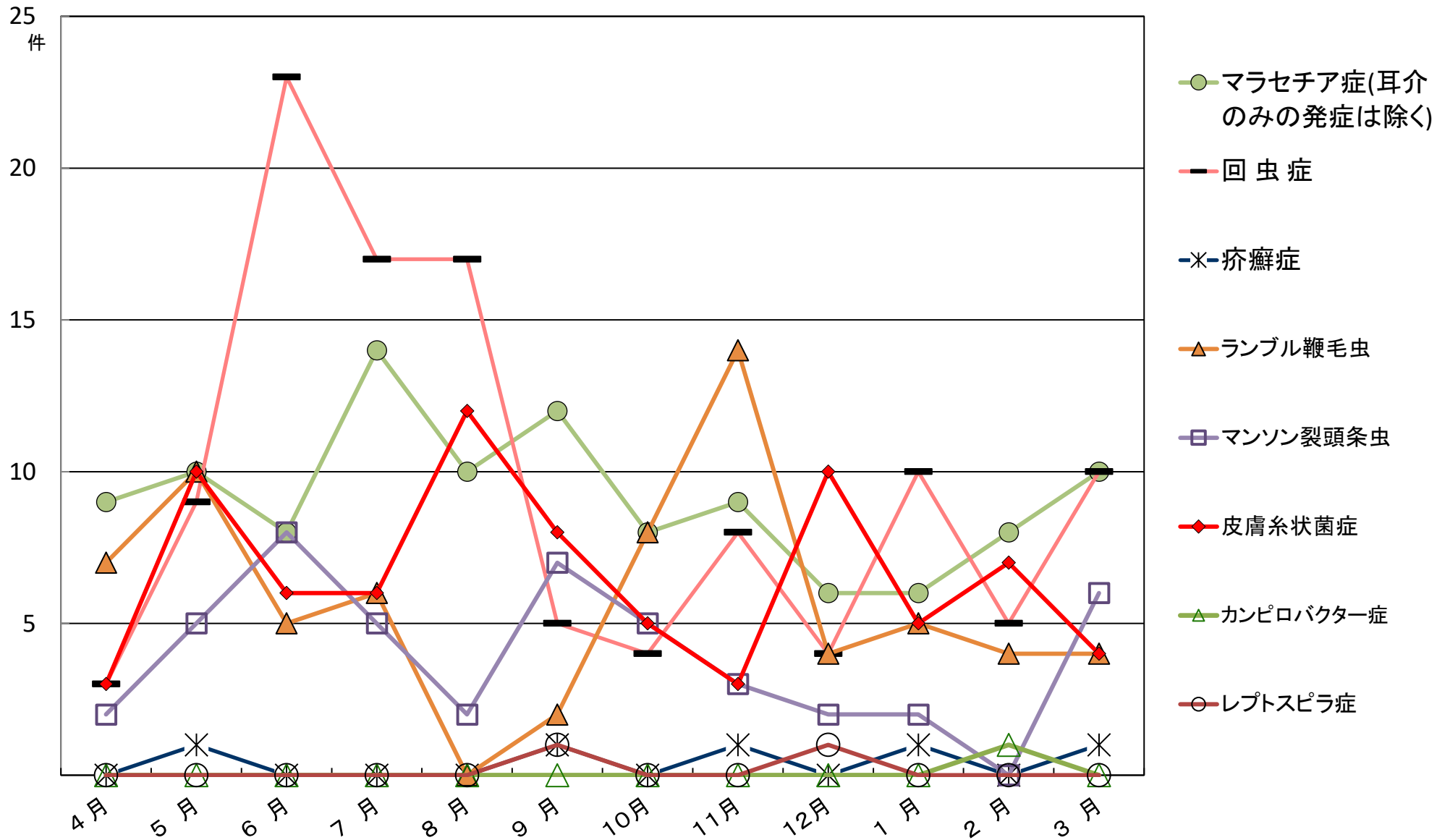
【主な感染症】

属	感 染 症	4月	犬	猫	他	5月	犬	猫	他	6月	犬	猫	他	7月	犬	猫	他	8月	犬	猫	他	9月	犬	猫	他	10月	犬	猫	他	11月	犬	猫	他	12月	犬	猫	他	1月	犬	猫	他	2月	犬	猫	他	3月	犬	猫	他	計	犬	猫	他			
ウイルス	狂 犬 病																																														0	0	0	0						
	高病原性鳥インフルエンザ(H5N1)																																															0	0	0	0					
	H5N1を除く鳥インフルエンザ																																															0	0	0	0					
	新型インフルエンザ等感染症																																															0	0	0	0					
	小 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
クラミジア	オウム病																																																	0	0	0	0			
	小 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
細 菌	結 核																																																	0	0	0	0			
	ブルセラ症																																																	0	0	0	0			
	レプトスピラ症																																																	0	0	0	0			
	カンピロバクター症																							1	1																								2	2	0	0				
	パストレルア症																																															1	1	0	0					
	エルシニア菌症																																															0	0	0	0					
	小 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0
原 虫	ランブル鞭毛虫ノジアルジア症	7	3	4		10	5	5		5	4	1		6	4	2									2	1	1				6	2		14	9	5		4	4			5	3	2		4	2	2		4	4		61	45	24	0
	トキソプラズマ症																																																	0	0	0	0			
真 菌	小 計	7	3	4	0	10	5	5	0	5	4	1	0	6	4	2	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	6	2	0	14	9	5	0	4	4	0	0	5	3	2	0	4	2	2	0	4	4	0	0	61	45	24	0		
	皮膚糸状菌症	3	2	1		10	2	7	1	6	1	5		6		4	2	12		12		8	3	4	1	5		4	1	3		3		10	1	8	1	5	1	3	1	7	1	4	2	4		3	1	79	11	58	10			
寄生虫	マラセチア症(耳介のみ発症は除く)	9	8	1		10	10			8	8			14	14			10	10			12	11			1	8	8			9	9		6	6			6	6		8	8			10	10		110	108	1	1					
	小 計	12	10	2	0	20	12	7	1	14	9	5	0	20	14	4	2	22	10	12	0	20	14	4	2	13	8	4	1	12	9	3	0	16	7	8	1	11	7	3	1	15	9	4	2	14	10	3	1	189	119	59	11			
寄生虫	マ Manson 裂頭条虫	2		2		5		5		8		8		5		5		2		2		7		7		13		5		3		3		2		2		2		2				6		6		55	0	47	0					
	エキノコックス																																															0	0	0	0					
	回 虫 症	3	1	2		9	2	7		23	4	19			17	5	12		17	3	14		5	1	4		4		8		8		4	1	3		10	2	8		5	1	4		0		115	22	93	0						
	東洋眼虫																																															0	0	0	0					
	鉤 虫 症					1		1		1									1	1																										3	1	2	0							
	顎 口 虫																																															0	0	0	0					
	疥癬症(耳介癬症含まない)					1	1																																								5	5	0	0						
	小 計	5	1	4	0	16	3	13	0	32	4	28	0		4	23	23	2	42	14	28	0	36	18	16	2	30	14	15	1	38	19	19	0	27	13	13	1	29	13	15	1	25	13	10	2	35	17	17	1	431	195	142	11		
	合 計	24	14	10	0	46	20	25	1	51	17	34	0		48	23	23	2	42	14	28	0	36	18	16	2	30	14	15	1	38	19	19	0	27	13	13	1	29	13	15	1	25	13	10	2	35	17	17	1	431	195	142	11		

【その他の感染症】

[illegible]

動物における人と動物の共通感染症月別発生推移（令和7年度）



令和7年度積極的疫学調査（SFTS抗体検査）結果

（動物愛護センター・保健環境研究所）

		採取年月日	センター搬入年月日	搬入保健所	引取・保護	種類	性別	大きさ	毛色	推定年齢	検査結果	備考
犬	1	2025年3月11日	2025年3月11日	山城北	引取	柴	♀	小	茶	17才	陰性	
	2	2025年3月13日	2025年3月14日	中丹東	保護	秋田	♀	大	茶白	4～5才	陰性	
	3	2025年3月25日	2025年3月25日	山城南	保護	トイプードル雑種	♀	小	白	7～9才	陰性	
	4	2025年4月15日	2025年4月15日	山城北	引取	トイ・プードル	♂	小	茶	17～18才	陰性	
	5	2025年5月2日	2025年5月2日	山城南	引取	雑種	♂	中	灰	5～6才	陰性	実質保護（徘徊犬）。マダニ採取
	6	2025年5月9日	2025年5月8日	中丹東	引取	シュナプー	♂	小	黒	12～13才	陰性	
	7	2025年5月9日	2025年5月8日	中丹東	引取	トイ・プードル雑種	♂	小	茶	12～13才	陰性	
	8	2025年5月9日	2025年5月8日	中丹東	引取	シュナプー	♂	小	黒	12～13才	陰性	
	9	2025年5月9日	2025年5月9日	丹後	保護	雑種	♂	大	茶黒	2～3才	陰性	
	10	2025年5月19日	2025年5月20日	南丹	保護	雑種	♀	中	黒	2-3才	陰性	
	11	2025年8月19日	2025年8月19日	山城北	保護	雑種	♂	中	茶	2-3才	陰性	
	12	2025年8月19日	2025年8月19日	山城北	引取	チワワ	♂	小	薄茶	4-5才	陰性	
	13	2025年8月19日	2025年8月19日	山城北	保護	ポメラニアン	♀	小	白	4才	陰性	
	14	2025年9月18日	2025年9月16日	山城北	引取	トイプードル系	♂	小	茶	14才	陰性	
	15	2025年10月3日	2025年10月2日	中丹東	引取	雑種	♂	大	黒茶	12才	陰性	フィラリア陽性、黄疸、発熱なし
	16	2025年8月15日	2025年8月15日	丹後	保護	M・ダックス	♂	小	薄茶	2才	陰性	
	17	2025年11月18日	2025年11月14日	丹後	引取	柴	♂	中	黒	14才	陰性	
	18	2025年12月12日	2025年12月11日	中丹東	引取	柴	♀	小	白	10才	陰性	
	19	2025年12月19日	2025年12月18日	中丹西	引取	トイ・プードル	♀	小	茶	11才	陰性	
	20	2025年12月19日	2025年12月18日	中丹西	引取	マルチーズ・トイプードル雑種	♀	小	茶	10才	陰性	
	21	2025年12月19日	2025年12月18日	中丹西	引取	マルチーズ・トイプードル雑種	♀	小	茶	10才	陰性	
	22	2025年12月19日	2025年12月18日	中丹西	引取	マルチーズ	♂	小	白	11才	陰性	
猫	1	2025年4月4日	2025年4月3日	中丹東	保護	雑種 成ネコ	♂	小	白キジ	2～3才	陰性	
	2	2025年5月20日	2025年5月20日	山城北	保護	雑種 成ネコ	♂	大	灰白	4-5才	陰性	
	3	2025年7月3日	2025年7月4日	中丹東	引取	雑種 成ネコ	♀	中	ミケ	2-3才	陰性	
	4	2025年7月4日	2025年7月4日	丹後	保護	雑種 成ネコ	♂	中	茶トラ	3-4才	陰性	
	5	2025年8月28日	2025年8月28日	中丹東	引取	雑種 成ネコ	♀	中	茶キジ	12才	陰性	
	6	2025年9月5日	2025年9月5日	丹後	引取	雑種 成ネコ	♂	中	白キジ	11才	陰性	
	7	2025年9月5日	2025年9月5日	丹後	引取	雑種 成ネコ	♀	大	白黒	11才	陰性	
	8	2025年9月26日	2025年9月26日	丹後	引取	雑種 成ネコ	♂	大	茶白	11才	陰性	